

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

「旅行産業」は世界的にみても今後も成長していく基幹産業であり、日本では製造業にとって代わる新しい国策に位置付けされている重要な産業である。そのビジネスモデルを、業界により異なるものの、講師の旅行業界・航空業界での企画・商品造成・マーケティング・セールスの各分野での多彩な業務経験を生かして、現場感覚を取り入れながら生きた講義とする。従来のビジネスモデルを踏まえ、近未来において変革していく方向性を示唆し課題を浮き彫りにしながら、就職対象としての各業界の魅力ある旅行ビジネスに踏み込んだ新たな驚きを講義として展開する。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション 評価方法・受講ルール、旅行産業の歴史、国策としての観光業とは
第 2 回	旅行会社の旅行ビジネス① ビジネスモデルとリスク、旅行商品、営業、カウンター業務
第 3 回	旅行会社の旅行ビジネス② 各旅行会社プロフィール（大手、中堅、グループ内旅行部門）
第 4 回	旅行会社の旅行ビジネス③ OTA、業務渡航、地方創生
第 5 回	旅行会社の旅行ビジネス④ 日本・世界の観光地、日本のインバウンドビジネス（国策として）
第 6 回	旅行会社の旅行ビジネス⑤ 旅行産業の課題：オーバーツーリズム、レスポンスツーリズム
第 7 回	航空産業の旅行ビジネス① フルサービスキャリア（JAL/ANA）の復活と今後
第 8 回	航空産業の旅行ビジネス② 特徴ある航空会社のサービス、eVTOL とは、理解度小テスト①
第 9 回	陸上交通の旅行ビジネス① 鉄道輸送ビジネスから非輸送部門の強化へ、人手不足への対応
第 10 回	陸上交通の旅行ビジネス② 新たな事業展開にビジネスチャンスが広がる
第 11 回	宿泊業と旅行ビジネス① 新旧ビジネスモデル、日本で起こる宿泊業界とビジネスの大変革
第 12 回	宿泊業と旅行ビジネス② 地方活性化と宿泊事業の多様化（古民家の活用、富裕層獲得）
第 13 回	その他の旅行ビジネス① 変わりゆくテーマパークビジネス—TDR、USJ、イマージブ、沖縄
第 14 回	その他の旅行ビジネス② クルーズ旅行・IR（統合型リゾート）・大型イベント・宇宙旅行まで
第 15 回	振り返り、理解度小テスト②、最終課題レポートの提出
第 16 回	試験もしくは最終レポート提出

到達目標

- ① 旅行ビジネスをコロナ前・コロナ後に分けて、その変化と今後のマーケット予測ができるようになる。
- ② 旅行会社・航空会社・宿泊業・テーマパーク各業界の今後の戦略を明確に理解し説明できるようになる。
- ③ 自然環境保護と観光とのつながりの習得とそのためのアクションプランを理解し、就活にも役立てることができるようになる。

履修上の注意

- ・授業計画は変更になることがあります。
- ・講義の理解を深めるため、講義テーマと連動する動画を視聴することがあり、欠席者は視聴できない。
- ・授業開始から 30 分までは遅刻として受講を認める。30 分以上遅れての入室は欠席扱いとする。遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとし、欠席の累計が 5 回を超えると単位付与は行わない。

予習・復習

- ・予習：授業の最後に、次回の授業で取り扱うメインテーマやキーワード（関連する用語）を提示するので、それを予習として行った上で次回授業に望むこと。
- ・復習：毎回の授業では「授業内課題シート」を記載し提出する。それを確実に習得することを課す。前半・後半に分けて「理解度小テスト」を 2 回実施し、復習状況のチェックとし、単位評定に反映する。

評価方法

以下の 3 項目を数値化し、それに受講姿勢と習得状況を精査した総合評価とする。

- ・平常点（毎回の授業内課題シートの提出、予習課題の取組み） 50%
- ・理解度小テスト（前半・後半、2 回実施） 30%
- ・最終課題レポート 20%

テキスト

テキスト指定なし。PPT 資料を作成し、メモを取る形式の講義を行います。手元の資料を配布することもあります。